

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2016
4.1

31号

巻頭言……1 / エコサロン公開講座 秩父の風土と祭り・民俗芸能……2-5 /
和名倉山森づくり報告……6-7 / 年間スケジュール……裏表紙

『先祖になる』の映画

理事長 小林 公彦

二〇一一年三月十一日に東日本大震災が起きて、五年の歳月が流れました。今だ被災地の復興が進んでいない地域も多くあります。仮設住宅で暮らしている方々もまだおられます。

逆に、被災を乗り越え前向きに生きていこうとする方々の報道が最近多く取り上げられていっていると思います。当時の大惨劇の状況を回顧すると改めて我々は何が出来るのかを考えさせられる時期なのかも知れません。

私は、二年ぐらい前の映画ですが、東日本大震災の被害を受けた、ある老人の生き様を記録した、『先祖になる』というドキュメンタリー映画を思い出しました。

この映画は、岩手県陸前高田市の当時七十七歳の農林業を営む男性が、津波で消防団員だった息子を亡くし、家も二階まで水に浸かり激しく損傷するのですが、住民が仮設住宅に移転していく中、先祖が生きてきたこの元の土地で再起を決意し、息子と先祖のために家を作り直すまでを映画化したものです。

この男性は、六十年以上木挽(きこり)の仕事をしてきた人です。津波で枯れた森の木を自らチェーンソーで切り倒して、家を建てるための木材を確保し、どの木を梁や桁に使うか決めていく。そして震災から二年と経たない期間で新しい家を作り上げられます。

家族は仮設住宅に移る中、被災を受けた建物を取り壊したあとも、納屋で一人一冬越す生活をするのです。

震災にあった住宅は、少しの歪みもなく水平で、びくともしなかったそうで、気仙大工の技術の高さ、木造の木の温もりの素晴らしさを誇っています。

また、チェーンソーで大木を伐ったあと、必ず塩と酒で清め、将来のためにその木の先端の苗木を伐り株に植え、山の神に祈りを捧げ、山の恵みに感謝するのです。

この映画は、人間が生きたために何が必要か、大切にしなければいけないことは何かを教えてくれたように思います。どんな苦難にも、勤労意欲を失ってはいけない。前向きに行動すること、希望を捨てないことの大切さを教えてくれていると思います。

最後のシーンは新しい家の中で朝日の日差しを浴びて笑顔でお茶を飲んでいるところで終わります。この老人の生き様を象徴しているシーンだったように思います。

『先祖になる』という題は、この老人が先祖や息子に対しこの土地を守っていくという想いのほか、この土地を離れ、仮設住宅に暮らしている方々がいつの日かまたこの土地に戻ってきて、家を建てて生活してくれることを願い、先陣を切り、『先祖になる』という気持ちを込めて付けた

そうです。この映画は、いくつもの国際映画祭の賞を受賞し、国際的にも高く評価された作品です。

東日本大震災の復興にはかなりの時間がかかるものと思います。一〇〇〇年に一度起こったこの大震災の風化をさせないことが、我々生きているものの役割であると思います。

復興支援する方法はいろいろな手段があります。被災地への復興ボランティア活動、被災地への観光や買物による支援、そして、映画や新聞・テレビなどメディアで風化させない活動など様々あります。我々「百年の森づくりの会」は、平成二十六年四月六日福島県田村市で放射能汚染のある森林の伐採地〇・八畝にブナ・コナラ・ミズナラ・カエデなどの苗木を一三五〇本植栽しました。

東日本大震災の被災地へ新たな苗木を植えることも復興支援の一つの方法であると考え、放射能汚染された森林が少しでも除染され、百年後、汚染のない水を育む山になってくれることを願い植林活動しました。

今後も福島県田村市の植林地の状況を観察しつつ、今後新たに復興支援できる場所があれば植林活動をしていきたいと思っています。その時は会員皆様とともに復興支援ができればと思っていますので、是非ご協力ください。

エコサロン公開講座（平成二十七年十一月七日） 秩父の風土と祭り・民俗芸能

講師 朽原 嗣雄 氏



（はじめに）

秩父で生まれ育ってずーっと暮らしています。そういった意味では井の中の蛙です。やまっこ、やまっこと言われ、お弁当に魚を入れると「魚が取れるんけ。」と言われました。そんな中で育ちました。

宝登山は禁猟区になっていますが、シカやイノシシ、笹熊が出ます。タヌキやキツネもいます。3年前、私の家の裏で罾を仕掛け、1年間に4頭のイノシシを獲りました。ここに罾を掛けたからと言われ、朝早く見に行くといノシシが罾の綱を切るような勢いで暴れていました。11月から2月は罾掛けすることが日課でした。

民俗学の中に信州の山村の暮らしについて書かれたものがあります。江戸から明治の頃の本だったと思いますが、我が家の裏ではイノシシが鼻で畑を掘り起こしてしまい、マンノウを持ってジャガイモを掘りに行くとの前の晩にすっかり食われていました。イノシシは一晩で一反部の広さの畑を親子で綺麗に平坦にしてしまうと書かれています。

いかに山が荒れているか。キノコ採りに行っても採れません。皆さんは18年も植林をなさっているという話ですが、秩父の間から見ますと、森を育て、森を守っている皆さんに心から感謝しています。自分も山を持っています。自分の山がどこにあるのか分からない。そういう世代になってしまいました。それだけ山は荒れているという事です。

（秩父の風土）

今日は秩父の風土と祭り、そして伝統芸能という事で話を進めたいと思います。

今は「秩父」と書きますが、

かつては「知々夫」と書いて、「ちちぶ」と読んでいました。

秩父神社と椋神社の二つの神社が武蔵野国の神社として平安の文献に載っています。そこから開けていったと思います。秩父は盆地です。私は浦和、大宮方面に十何年通いましたが、秩父の山が見え、夕日が沈んでいく時が一番美しいなあと思います。山の麓が我々の住んでいる所であり、山が茜色に輝き、山に沈んでいく。昔の人が言っていますが、西方浄土には何かあるのではないかという気持ちその時に持つわけです。

それから荒川の源流となる最初の一滴が奥秩父からずーっと流れ、隅田川と合流して東京湾に注ぎ込む。秩父は四里四方の盆地で一辺が12kmあります。小鹿野、両神、大滝の入り口まで四角形のようなところに人が住んでいます。もちろん山の中にも住んでいます。

清水武甲さんという写真家が秩父の写真をたくさん撮っています。武甲さんは南に2kmの山が控えているから秩父は「陰

の盆地だ」と言っています。確かに、後ろを振り返ってみると陽の当たる屏風の様に広がる盆地です。

秩父は江戸の文化の吹きだまりとも言います。江戸をはじめ上州・信州・甲州の国々から流入した文物が、長い年月を経て、山ひだの村々のなかに沈殿し、極めて古風で多様な民俗文化圏を形成しています。

秩父には札所、観音霊場があります。今では秩父三社（秩父神社・三峰神社・宝登山神社）と言いますが、秩父は西の地にあり、江戸時代になって信仰の地に行ってみようという事で開けます。坂東などの札所を回るのは1ヶ月近くかかりますが、秩父は江戸から1週間で回れます。関所もなく女子供でも来られる場所であることなどから人気となったようです。

秩父は山に囲まれた盆地で物資や文化の流入は峠を越えてもたらされました。峠は不便な所と平地に住んでいる人は考えますが、一番他所と近い所です。峠を越せば大きく開け、見方も

変わるのです。「峠の会」という団体が秩父の峠を調べており、秩父には約200の峠があるとされています。

(秩父の伝説)

秩父には伝説も多いです。日本武尊が東征の折、甲斐国の酒折の宮から雁坂の山から和名倉山を越えて、三峰山に登っています。宝登山、両神山、武甲山にも日本武尊伝説が残っています。それぞれ自分の地域に都合の良いように解釈し伝説として残っています。

特に、日本百名山として有名な両神山は、八日見山という古名があります。はるか常陸国からくる時に八日間見えたので、そう呼ばれるようになったと言われています。イザナギ・イザナミの二神を祀るから両神という説もあります。

秩父には平将門の伝説も各地にあります。平将門は下総で敗れて、秩父城峰山に逃れてきました。愛妾キキヨウ姫の裏切りで捕えられ首をはねられてしまいました。そこから、城峰山にはキキヨウの花は咲いていないという伝説があります。

小鹿野町の三田川から群馬県の神流川の谷へと越す峠に志賀坂峠があります。秩父の人たち

は、神流川の谷の人たちを「山中(さんちゅう)のてえ」と呼んでいました。山中領には将門の伝説があり、城峰山落城の折、家来と女中が落ちのびたときの話です。敦賀明神という祠がある。祠の回りにはフキがあり、穴があるが何故か分かるかい。男はどうしても我慢が出来ずに女性と交わる時にフキを挟んだ。それで穴が開いたんだと、もつともらしく伝わっています。

秩父には「大君の命かしこみうつくしけ真子が手離れり島伝い行く」という万葉集の防人の歌碑があります。防人は瀬戸内海を島伝いに九州へ向かいました。この船旅でつくられた歌とされていますが、秩父では島伝いに行くというのは、山の斜面に散在する集落を指す場合があるので、この歌は秩父で詠まれたとする説もあります。

更級日記の中に「子忍びを聞くにつけてもとどめおきしちちぶの山のつらき東路」と秩父のことを書いています。父親というのは厳しい、だけど秩父の2km級の山も厳しいとかけて詠っています。その山の厳しさが修験道の山岳仏教の元になっています。そして発展していったのが観音霊場です。秩父札所は1234年に開設

されたと言われています。秩父札所は現在34カ所ですが、できた当初は33カ所です。当初山にありましたが、それが平地に降りてきました。札所のお寺さんは檀家を持っているのは少ないのです。巡礼に来ていただいた上がりでは生活していたのではないかと、いう事も考えられます。参拝者が段々と増えていく中で、札所のお寺の名前より何番と言った方が通じる。8番という横瀬の西善寺とか、34番という日野沢の水潜寺という風になりました。

札所の番号の切り替わる時期がありました。長享2年(1488年)当時は33カ所、秩父神社が中心で回るようにして盆地の外へ出ていった。それが、日本百カ所霊場に参加して34カ所になり、一番は江戸から近い栃谷の四萬部寺となり、江戸に顔を向けたことになるのです。

(秩父の自然)

続日本紀に「秩父郡猷和銅」とあり、708年武蔵野国秩父から自然銅が産出され和銅が献上されました。これが和銅開珎(かいちん)で、日本で最初の鑄造貨幣です。採掘地は黒谷と言われています。黒谷だけでなく長瀬にかけて鉱床があり、長

瀬にも5、6カ所の横穴があります。長瀬の法善寺に行くと自然銅の大きな石が残っています。この地域には、金辻、金尾、金石、金崎、金沢など金系の地名があります。

宝登山のホドとは日本武尊がお登りになった時に山火事が起こって、お犬様(オオカミ)が出て、火を消し止めた、だから火を止めるから火止(ホド)山なんだ。囲炉裏の低い所をホドと言います。古事記などは読みますと女性の窪んでいる所をホドという。山間のへ込んでいた所で、火を焚いて金属を溶かしたとも言われています。金先というのは鉱脈のある先で、金尾というのは鉱脈の尻尾なんだよという言い伝えもあります。

また、平安の末期、鎌倉の初期の頃から江戸に掛けて、長瀬や小川町で豊富に産出された緑泥片岩を加工して板碑を作りました。それが青石塔婆です。今は木の塔婆ですが、当時は石で作りました。それも青い石の板碑です。日本一供養塔が長瀬にあります。大きさが5・37mあります。その裏山には切り出した採掘跡があります。板碑を荒川で運んで、それが関東一円に広がっていきました。板碑は武士ぐらいでないで建てない。江戸

時代の1600年代までにしか建てられていません。昔は古墳の蓋として使われたようです。

森林資源は名栗が本場ですが、江戸に大火があると秩父からも運んでいました。昭和10年代まで荒川を筏で下っていた。最後の筏の船頭に聞いた話ですが千畳敷の末端にあたる玉淀から熊谷まで緩やかになり、そこから一艘二艘の筏をつないで江戸の千住まで持つて行った。竹も貴重なものだから筏で運んだ。秩父の石も漬物石として運んで行ったようです。

平賀源内は奇抜なこともやるし、発明家でした。皆さんも知っておられるアスベスト、燃えない石として秩父から持ち出しました。今ではそんなものはないですが、当時は大変な産物でした。源内は秩父の幸島家に滞在し、中津の鉱物を発見し、一山当てようと採掘しています。武田信玄が奥秩父の山で金を掘ったという話をお聞きになったでしょう。その後、大滝の中津川はニッチツ鉱山として鉄などの鉱石が出たんですが、煙の公害問題と秩父の鉱石は質が悪いというので段々と使われなくなりました。ニッチツ鉱山のある小倉沢には学校まであり、当時は従業員だけですが

数の人がいました。

平賀源内は鉱山の開発を試みたが失敗し、秩父の木を伐り出して江戸に出す船にも手を出しました。幸島家に泊まっていた時に釘一本も使わないで設計して建てた「源内居」が今も残っています。そこで芝居の戯曲「神靈矢口の渡し」を書いて、それが江戸で大ヒットしました。人形浄瑠璃の台本なども多く、大阪の文楽に残っています。そして人間が演ずる歌舞伎に移っていき、演ずるようになりました。秩父でも地芝居として、小鹿野町でも盛んに上演されています。

秩父はセメントと織物の街とも言われています。セメント産業は衰退してしまいました。開発、発展に尽くした武甲山は標高1336mありましたが、1304mになってしまいました。織物も同様に家内工業的になってしまいました。平成2、3年頃には養蚕農家が当時5000ぐらいありました。それが11軒となり、秩父郡市の皆野町は0軒、長瀬は2軒です。これではどうしようもない状況です。

もう一つ触れておきますが、秩父は日本地質学発祥の地です。明治11年にナウマンゾウで有名なナウマン博士が秩父に来て地質を調べています。大正5年に

は宮沢賢治が20才の時に岩手からやって来ました。盛岡高等農林学校に通い、翌年の大正6年に、山梨の保阪嘉内あてに手紙をやり取りした時に詠んだ歌が秩父に残っています。「つくづく」と「粹なまやうの博多帯」荒川ぎしの片岩のいろ」。

長瀬の自然史博物館の近くの河原に行くとき「虎岩」というのがあり、トラのしま模様をしています。明治から学会で評判となり日本地質学発祥の地として自然史博物館が出来ました。長瀬は地球の窓とか、長瀬を調べれば地球が分かると言われました。大正13年に長瀬は国の名勝天然記念物として指定を受けました。そして、平成23年に日本ジオパークとして認定されました。

（秩父の祭・秩父夜祭）

秩父神社について、1659年の井上家文書に秩父には1年に3度大きな祭りがあると書かれています。正月20日から2月3日まで、8月11日より23日まで、秩父夜祭と言っている旧暦で10月20日より11月3日までです。この間は仕事を休みなさい、謹んで祭りを迎える為に斧を持って山に入り木を伐るのを止めなさい。これを神事の入りと

言って、神を迎える準備をなさいとされています。今は祭りというところの日だけで、それを「お籠もり」と言ったりしています。宵宮とか宵待ちともいいます。これを守ったかどうか分かりませんが、この間に木を伐っているのは秩父の人間じゃないよということですよ。

2月3日お田植え祭り、8月23日新穀感謝祭、11月3日が夜祭です。現在は4月4日にお田植え祭りをやっています。田んぼのない秩父で田植え祭りをやっている。東京の板橋区の徳丸本町北野神社と赤塚諏訪神社の2カ所です。2月に田遊びと言った神事が行われます。埼玉では、秩父神社のほか3月3日に上蒔田の椋神社で御田植祭が行われます。

1709年の「秩父領百姓年中業覚」に秩父の夜祭は武甲山の男神と明見様の女神がデートするのを祝う祭りなんだよと書かれています。お花畑の駅前にある亀の子石で出会う。山の上の神は陽神にして男神であり、山の下は陰神にして女神です。神輿やお参り、馬や屋台や笛太鼓で送り、山へ行くことを意味しています。田植え祭りは春の農耕を前に山から迎え、1年の収穫を見届けてもらい旧暦の11

月3日に夜祭で1年ありがとう
ございましたと神様を山へお送
りするという意味です。

明治20年書かれた「秩父志」
には七つの妙見神を郡の境に祭
ったと書いてあります。妙見神
というのは七つの星、北斗七星
の信仰なんです。江戸時代には
秩父は大宮郷と言われており、
一つは山中領、児玉の出牛村、
寄居の末野村、都幾川の大野村、
吾野の南川村、東秩父の安戸村、
飯能の名栗村に七つ妙見宮を祭
ったのです。

秩父夜祭りは「お蚕祭り」と
も呼ばれています。祭りの気分
を味わうだけでなく、絹大市が
開かれ、年間最大の絹取引が行
われ、秩父は繭の生産で栄えま
した。

この祭りで曳行される笠鉾・
屋台六基は「秩父祭屋台」とし
て国の重要有形民俗文化財です。
屋台の上で行われる屋台囃子・
屋台歌舞伎・曳き踊りと神楽は
国の重要無形民俗文化財となっ
ています。秩父の屋台は全て組
み立て式です。屋台を止めると
張り出しは両側に出て、家の2
階は栈敷になります。日本三大
曳山祭りの一つです。秩父屋台
囃子は、江戸や京都の祇園とは
違い、腹に浸み込むような太鼓
をたたかないと重い屋台は動か

ない。今の様にアスファルトで
はなく雨や雪の時など泥まみれ
になって引くわけですから山の
力強い囃子が生まれたのです。

（秩父の祭・吉田龍勢）

もう一つ秩父の特色として吉
田の龍勢があります。椋神社で
毎年10月第2日曜日に開催され
ます。全国の龍勢と言えば静岡
の草薙や朝比奈、滋賀県などに
もありますが、秩父の吉田ぐら
い大仕掛けの物はないです。火
薬の量も違う。これは秩父の歴
史をずーっと見て行かないと吉
田の龍勢は分かりません。

農民ロケットと言われ、龍勢
とは龍が昇天する姿に似ている
ことから名付けられました。秩
父の場合は、長さが12、15m青
竹の根元に、口径が10cm、長さ
40、50cmの火薬筒を取り付け、
火薬は5キロ、硝石と炭と硫黄
を混ぜた黒色火薬を詰めます。
火薬の割合はトニイチと言われ
硝石10に対して炭は2、硫黄1
の割合です。硝石の割合によっ
て火薬の強さが変わります。

火薬の歴史をたどるとどこま
で遡るのか。日本には炭はどこ
にでもある。ないのが硝石です。
岡山とか富山では山の方で作っ
ていました。秩父でも作っていた。
幕末頃の日記を見ますと、寺と

古い農家の床下を掃いて集めて
は売っていた。振るい土の方法
という。それを水に溶かしたり
煎じたりして硝石を作った。そ
れが今日の龍勢に繋がっていつ
たのです。

今27の流派があります。昔は
耕地と言って集落ごとにつくつ
ていた。かつて農家が8割でよ
かったが、今は勤め人がほとん
どになってしまい、日曜だとか
夜に集まり、そこで作っていま
す。

秩父の龍勢は凄いもので一番
古いのは天保年間1830年か
ら1843年頃打ち上げたとい
う伝承があります。はっきりし
た事は分かりません。はっきり
するのは慶応3年1867年明
治維新の前の年に田中千也とい
う人が書いた千也日記に秩父事
件（明治17年）の事が細かく書
かれています。椋神社で蜂起し、
その時に龍勢が2本上がったと
書かれています。

その後、明治5年に上げた龍
勢の直径は4寸2分でえらい筒
の大きさで、凄い火薬の量です。
竹の長さが16間半で信じられな
いものであったようです。明治
40年には6寸と書いてあります。
筒の内径が6寸だと20cmで凄
いものです。筒棒で黒色火薬を2
00回打ち、カチンカチンに固

める。明治40年の龍勢を上げる
には、矢柄の長さが23m、それ
をひっかける槽というのは30m
ないともありませんので、眉唾だ
と思うのです。

秩父の龍勢は農民のコツがあ
ってみんな秘伝にしていました。
教えっこないわけです。硝石
と炭を混ぜることをすり合わせ
ると言います。その時、乾いて
はいけないので口に水やお茶を
含ませて吹きかけています。焼
酎を入れた時もあった、それが
自分のお腹に入ってしまう。そ
んな雰囲気の中で当時は作って
いたようです。それが吉田の龍
勢です。中国や台湾にもありま
すが、吉田ほど凄いいものはない。
成功する割合は7、8割、時に
は失敗します。

秩父には神楽や獅子舞、歌舞
伎芝居、人形芝居、秩父音頭、
そして独特のもので秩父屋台囃子、
万作踊りなど民族芸能が連綿と
して残っています。それらはみ
んな神社の氏子がやっています。
プロじゃない人が伝承している
ことを「承知頂ければ」と思います。

長時間にわたり熱心にご清聴
頂き本当にありがとうございます。
少しでも秩父の歴史を理
解していただければありがたい
です。

（文責 事務局）

2015年度下半期

和名倉山森づくり報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡正彦

和名倉山は、1964年（昭和39年）と1969年（昭和44年）に山火が発生し、多くの樹木が焼失しました。その跡には成長の速いカラマツを植林するなど、森の復興が図られました。同時期、林業の衰退で山での仕事も少なくなり往來が激減し、多くのルートが2m以上のスタケで覆われ藪の山となってしまいました。そのような和名倉山を以前のよくな水を育む山に復元するために、1997年埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会が活動を始めました。

その後、NPO法人百年の森づくりの会として事業を拡大しています。2000年までに失われた道の復元を行ない、2001年には樹木の生長が遅いところに、和名倉山の在来種であるブナの苗を植林し始めました。植林を始めると、鹿による食害に悩まされ、植林よりも、現有樹木を守るほうが先と考えました。現在は現有樹木に鹿よけネット巻く作業が主になっています。年には旧大滝村村有林の管理小屋だった仁田小屋を改修しこの事業のベースキャンプとしています。この小屋は会員の力でログハウス風に作り上げました。

（なお、和名倉山は山頂が県界でない山々における埼玉県の最高峰です。ご存じだったでしょうか？）

2015年度上半期

5月4・5日 ナシ尾根偵察山行

（仁田小屋・仁田小屋尾根・ナシ尾根）

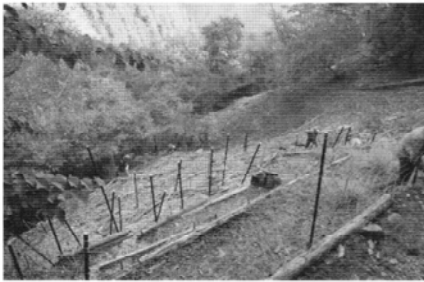
5月30・31日 36回ワーク

（仁田小屋整備・鹿よけネットの修理設置）

10月24・25日 37回ワーク

今回のワーク（和名倉山での一連の作業のことをワークと呼んでいる）では前回に引き続き「仁田小屋整備」と「鹿よけネットの修理」を行ないました。

初日の「仁田小屋整備」では、まず小屋



下の斜面の土砂が流失し始めているので、それを防ぐ作業として杭を打ち込み階段状に平地を作る作業を行いました。杭は、以前間伐材を使用していました。現在は

単管パイプを打ち込んでいます。打ち込んだ単管パイプに間伐材を渡し、堆積物によって平地を作ります。すでに何段かでき上がり、平地面にホオズキなどが植生しています。今後、育ちの速い柳の木な

どを植栽する予定です。

次に、仁田小屋に設置している薪ストーブの煙突掃除を行いました。ログハウスには薪ストーブがよく似合います。このストーブの煙突の水平部分にススが溜まり燃焼効率が落ちてしまうのです。高いところの作業なので慎重に行ないました。さらにその傍らで、燃料となる薪を割りました。仁田小屋周辺の間伐のために切り倒されたものを、燃料としていただいています。今回も参加したいずみ高校山岳部の生徒は、煙突掃除にしても、薪割りにしても、1年生には初体験であり、2年生にしてもめったにできる体験ではないので、ビビりなが

らも楽しそうに作業していました。日が落ちる頃からストープを囲んで夕食の準備をし、ワークの疲れを癒します。夜が更けると満天の星を眺められます。小屋の南東方向が開けているのですが、正面に雲取山を拝むことができます。雲取山の左の肩に雲取山荘の明かりがわずかに見えます。あちらからもこちらの明かりがみられるのでしょうか。

2日目、鹿よけネットの修理のため仁田小屋の頭（1555m）まで上がりました。（仁田小屋は1100m）

2001年の最初の植林地が仁田小屋の頭のすぐ下であり、「一步の森」と命名しています。最初に植林したのはたったの13本でした。東京大学の影森演習場で育てられたブナで8年目のものでした。この苗を演習場から掘り起こし土ごと運ぶことにしたので、1本20〜30kgあったのです。たとえ13本であっても大変な苦勞でした。そのようにして植林したブナの内今残っているのはたったの1本です。鹿よけネットをしたにもかかわらずネットの上から出ていた新芽、若葉をかじられたり、鹿よけネットが雪を受けて倒れてしまったりして、残りは枯れてしまいました。その後の植林は、「鹿の食害」との争いでした。

2002年の植林ワークでは「一步の森」の奥に、ギャップ地（樹木がなく開けた場所、日当たりのよい場所）を見つけました。

このスズタケを刈り、周りをネットで大きく囲み、「セカンドフォレスト」と命名し植林を始めました。この植林地には50本のブナを植林したのですが、早々に、鹿では



鹿よけネット回収前・後



↑ネット回収

↓仁田小屋前にて



ない小動物に芽をかじられ始めました。そこでさらに目の細かいネットを巻いたのですが、結果すべて枯れてしまいました。このようなネットがこのほかに3か所

あり今回のワークで片づけることにしました。今回のワークの参加者は高校生を含めて15名でした。最近では多いほうです。このような状態ですので現段階では大規模な事業の計画はないのですが、細々でも長く活動し続けることが大切だと考えています。今まで参加されたいと思っっています。仁田小屋周辺での作業もたくさんありますのでハイキング程度の気持ちで参加いただけます。また、一昨年から仁田小屋周辺の作業だけでなく、雲取林道の5kmほど手前から和名倉山に続くナシ尾根のルートの確認の作業を行っています。このルートも5年ほど前はスズタケに覆われルートが全く見通せませんでしたが、現在はスズタケが枯れ、足元は悪いものの和名倉山への最短ルートになると思います。まだ、十分整備していませんので、初心者が歩むには危険です。私自身、昨年5回通りましたが、3回ほどルートを外しました。5回目ようやく最良ルートを見いだせたとこです。埼玉県において山頂が他県と共有しない最高峰である和名倉山は、長い間埼玉県から登るより山梨県から登る山として紹介されてきました。この山を、埼玉県から登る山としてもっと身近かな存在となり、水を育む大切な山となるといいと思っています。そのためにもナシ尾根ルートの確保が重大だと考えています。よろしくお願いたします。



2016年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		苗づくり	エコサロン他
		和名倉	宝登山/大陽寺		
4月	■会報31号発行 ○4/3(日)常務理事会		■宝登山 補植作業 日時：4月3日(日) 集合：9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
5月	●5/16(月)理事会 場所：さいたま市 市民活動サポートセンター	◆第38回和名倉山ワーク 日時：5/28(土)～29(日) 集合：8:30/西武秩父駅			
6月	■第9回通常総会・記念講演会 日時：6/5(日)午後2時から 場所：埼玉教育会館 13:30 開場 14:00～14:50 第9回通常総会 15:00～16:30 記念講演会 16:45～18:30 懇親会 ○6/19(日)常務理事会		■宝登山下草刈り作業 日時：6/19(日) 集合：9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
7月					
8月	○8/21(日)常務理事会		■宝登山下草刈り作業 日時：8/21(日) 集合：9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
9月					
10月	■会報32号発行 ○10/17(月)常務理事会	◆第39回和名倉山ワーク 日時：10/22(土)～23(日) 集合：8:30/西武秩父駅			
11月	●11/21(月)理事会 場所：未定				◎公開講座 日時：11/13(日) 会場：未定
12月	○12/19(月)常務理事会				

和名倉百年の森 第31号 2016年4月1日発行

発行者：NPO法人百年の森づくりの会 小林公彦

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

さいたま市市民活動サポートセンター内 メールボックスA-71

TEL/FAX：0480-22-3131

http://www.100nen-forest.org e-mail: info@100nen-forest.org